冬は凍結から水道管を守りましょう！

水道管は気温がマイナス４度以下になると凍結しやすくなります。次のような場所では、凍結して破裂するおそれがあります。

- **水道管がむきだしになっているところ**
- **家の北側で、日の当たらない場所**
- **風当たりが強いところ**

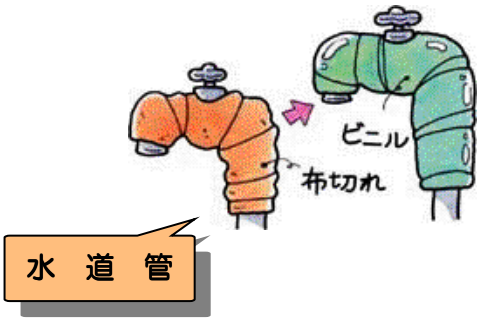
●凍結の防止方法

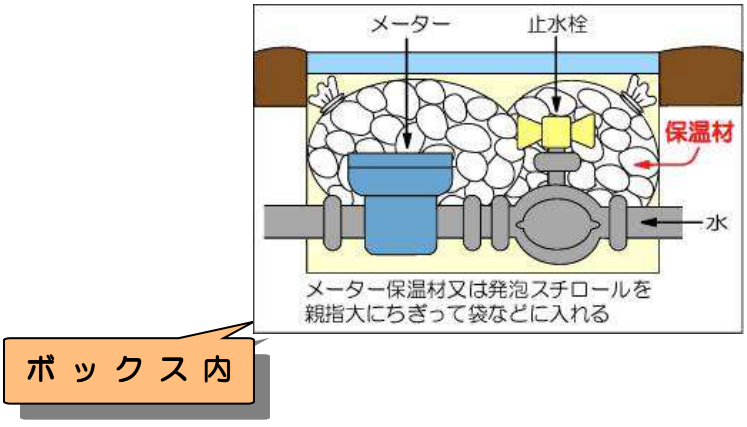
①水道管を保温する

蛇口や水道管に保温材または布などを巻きつけて保温し、その上をビニールなど、水を遮断する材料で覆います。

メーターボックスの中には、ビニール袋に入れた発泡スチロールや布切れなどを入れ、上にダンボールなどをのせて保温してください。

凍結防止対策例





②少量の水を出しておく

水道管内の水が常に流れた状態であれば、水は凍りにくくなります。就寝前に蛇口から鉛筆の芯の太さくらいの水を出しておくと、凍結の防止に有効です。

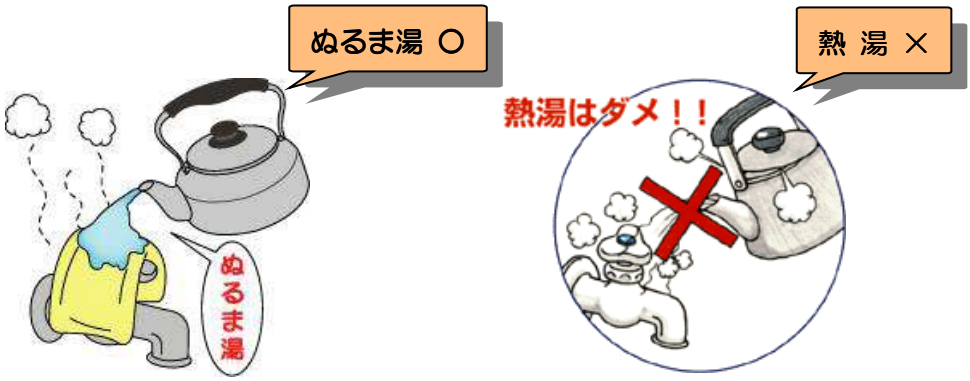
※出した分の水については、料金がかかりますので出し過ぎにはご注意ください。

●水道管が凍ってしまったら

凍ってしまった部分にタオルや布をかぶせて、その上からゆっくりと「ぬるま湯」をかけてください。

※直接熱湯をかけると、水道管や蛇口が破裂することがありますので、ご注意ください。

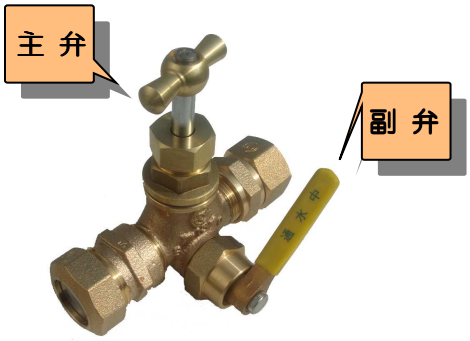
解 凍 処 置 例



●水道管が破裂してしまったら

メーターボックスの中にある止水栓を閉めてください。そして破裂した部分に布かテープをしっかり巻きつけて応急処置をし、水道業者に修理を依頼してください。また給水装置（メーターから家側）は、各ご家庭で管理いただくものですので、その際の修理費用やその他の改造等にかかる費用は、使用者の負担になります

止 水 栓



※基本的には主弁にて止水できますが、劣化により閉めても水が止まらない場合は、副弁を反対側に倒すことにより止水できます。

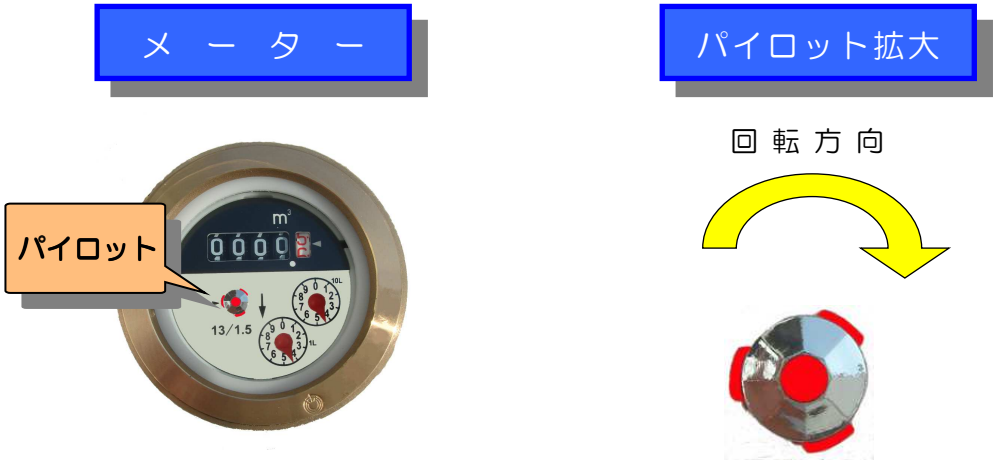
（注）給水装置工事の年代により副弁がついていない場合があります。

●水漏れに注意

小さな水漏れでも放っておくと、その漏水箇所は広がってしまいます。特に漏水箇所で凍結が起こると、その進み具合は早くなります。一度メーターを通ったあとの漏れた水は検針水量に加算され、使ったつもりもない水道代を払うことになります。日頃から給水装置（メーターから家側）の水漏れには充分気をつけてください。

●水漏れを自分で調べるには

ご家庭の蛇口を全部閉めて、水道メーターを確認してください。特にパイロット（銀色の円盤状で赤い羽根が３枚ついたものです）をよく見てください。パイロットはごくわずかな水の流れにも反応するので、パイロットが回っていたら宅内での水漏れの可能性があります。



◎ お問い合わせ・・・水道局（２６―１０１７）